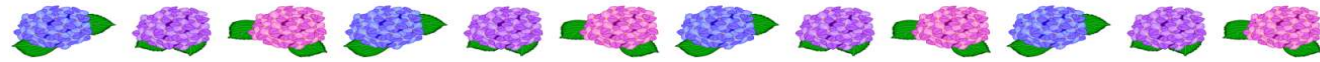




ちよっちょライブ러리

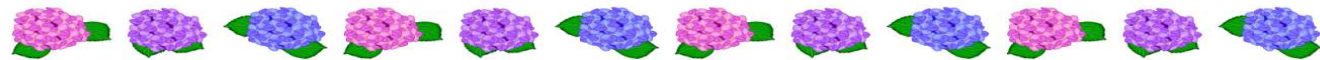


学校図書館司書



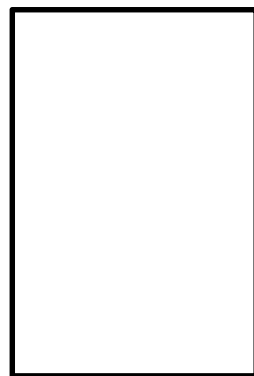
梅雨の時期は、^{しっけ}湿気でジメジメして重たい気持ちになることもありますよね。私は、休日の朝に近所の公園を散歩していますが、雨が上がった後の公園は紫陽花などの植物が雨露を浴びていて綺麗で癒されます。

梅雨の季節は、雨音に包まれながら雨や紫陽花に関連のある本を読みながらゆっくりと図書室で過ごしてみてはいかがでしょうか。



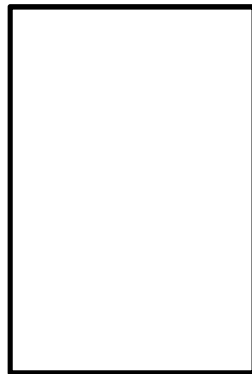
☆読書感想文課題図書☆

2026年度 第72回 青少年読書感想文全国コンクールの本が3冊届きました。



『君の火がゆらめいている』

落合 ^{ゆか}由佳【作】／講談社



『リュウグウの砂に挑む』

伊藤 元雄【著】さら ちよみ【絵】／くもん出版



『チーム・テスならだいじょうぶ』カービー・ラーソン、クイン・ワイアット【作】

杉田 七重【訳】／鈴木出版

☆おすすめの季節の本☆

6/5は「落語の日」、6月第1月曜日は「寄席の日」です!

『天気のおくみ事典』ブライアン・コスグローブ【著】平沼 洋司【日本語版監修】／あすなろ書房

『雨の名前』高橋 順子【文】佐藤 秀明【写真】／小学館

『小説 言の葉の庭』新海 誠【著】／KADOKAWA

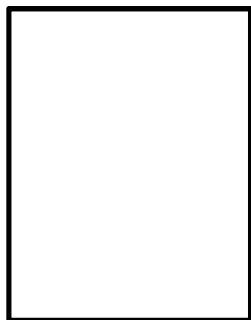
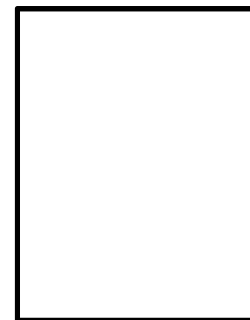
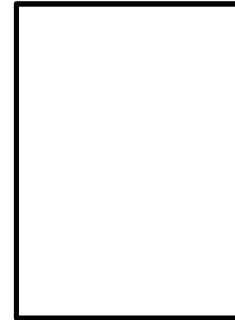
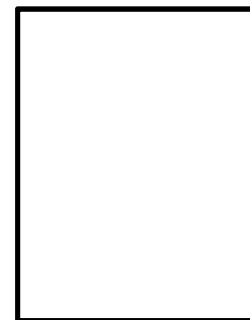
『KZ' Deep File 断層の森で見る夢は』藤本 ひとみ【著】／講談社

『マンガで教養 やさしい落語』柳家 花緑【監修】柚木原 なり【マンガ】／朝日新聞出版

『落語入門』渡邊 寧久【監修】／成美堂出版

『オチケン!』大倉 崇裕【作】／理論社

『NHK連続テレビ小説 ちりとてちんく上』藤本 有紀【作】青木 邦子【ノベライズ】／NHK出版



☆ちよこっと豆知識☆

『落語の日』は「らく(ろく=6)ご(5)」の語呂合わせで、落語家の春風亭正朝が制定したとされています。

2000年(平成12年)から東京都内の4つの定席と国立演芸場が毎年6月第1月曜日を「寄席の日」として、入場料の割引サービスや団扇を配布するなど活動を行っています。

『寄席の日』は、江戸での寄席の発祥が、1798年(寛政10年)6月に、初代・三笑亭可楽により台東区東上野の下谷稻荷社(現:下谷神社)境内で「風流浮世おとし噺」の看板を掲げた興行(観客を集めて、入場料やチケット代を取り、ショーやイベントを開催すること)が行われたことが始まりとされています。

